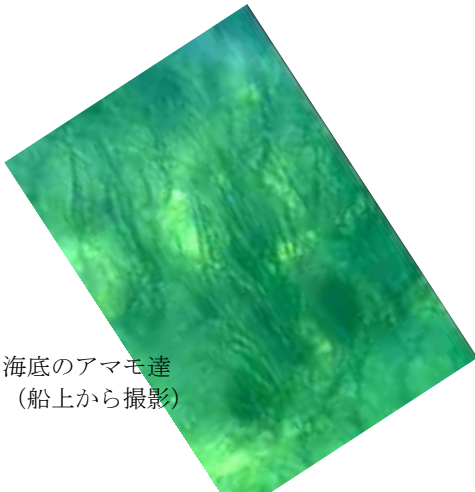


■ 2月3日（水）アマモを採取し水そうへ

育て・増やすアマモを採取するため、私たち5・6年生は佐木島にある須ノ上海岸に向かいました。海ではすでに上嶋先生や岩井さん・富田さんたちがアマモ採取の準備をしてくださっていました。場所は須ノ上海岸沖数十メートルにあるアマモ場。

三原漁業協同組合のご協力で用意して頂いた船に乗りアマモ場へ。船の上からアマモの生えている様子や、もぐって採取して下さったアマモを手にとって観察しました。



海底のアマモ達
(船上から撮影)



赤ちゃんアマモ（赤丸）と
若い栄耀株のアマモ（右）



須ノ上海岸で、ダイバーの岩井さんより海中の様子や生き物の様子について話を聞く。

*今回須ノ上海岸からアマモを採取したのは、鯨島に最も近いアマモ場であり、なるべく種類の近いものを植える方が自然に優しいとのご指導による判断でした。

*アマモ採取については、三原市漁業協同組合より許可を頂いています。

その後学校に帰り、水そうにアマモを植えました。

今回は、人工海水を使って育てることにしており、約3%（実際には川の水が混ざるため少し塩分濃度が低く2.8%程度だと教えてもらい調整。）の海水をつくることが大変でした。



①2種類の砂を水そうにしく



②人工塩の量をはかる



③水を入れ、2.8%の海水をつくる



③岩井さんによる植え方教室（生長点を傷つけないように！）



④アマモを植える



⑤水そうに海水投入



完成しました！

児童の感想から

- ・水そうが小さい海みたいになってうれしい。お客さんにも見てもらいたい。
- ・アマモを植えることができうれしいです。これがスナメリプロジェクトのあゆみです。これからアマモが大きくなるのを待って早く鯨島に植えたいです。
- ・さぎ島はとてもたくさんのアマモがあった。木原もこんな豊かな海にしたいと思う。
- ・まずはここ木原小からどんどんアマモを広げていき、木原沖全体がアマモになったらいいな～。
- ・アマモを水そうに植えるのは、とても難しい。海に植えるのはもっと難しいかも・・・
- ・海が透けて見える。底まできれい！（水深約2mだそうだ。）
- ・フグやカレイらしき魚がたくさん泳いでいた。アマモがたくさん生えていると魚が多いようだ。
- ・あれだけ多くのアマモがあるけど、さぎ島でスナメリという話は聞いたことがありません。どうしてだろうか。（本当はいるのかな。）調べてみたいです。

*これからしばらくアマモの観察を行います。来年はこうした経験を活かし、アマモをふやし鯨島に植え、アマモをふやしていきたいと思います！